

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立西中学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題については概ね正解しており、文脈に即して漢字を正しく書くことや、語句の意味を理解することができていることが分かります。このことから、漢字や語句を習得するための反復演習が、基礎学力の定着につながっていると考えます。	(1) 「読むこと」については、場面の展開や登場人物の心情の変化などの描写を丁寧にとらえて読み取る設問の正答率が低くなっています。また、「書くこと」については資料から必要な情報を引用して、根拠を明確にしながらかくことに課題が見られます。
(2) 数学の「データの活用」の問題については、多くの生徒が正解しており、データから必要な内容を読み取る力がついてきていることが分かります。理科の「生命」の領域については、正答率が高く、動植物が持つ特長を理解して、科学的な思考につながれていることが分かります。	(2) 「素因数分解」や「連立方程式」を解く問題の正答率が低く、用語の理解や処理の仕方に課題が見られます。また、数学的な表現を用いて考えをまとめることを難しく感じている生徒も多くいるようです。理科では、複数の観察、実験の結果を分析して、それらを根拠として考察することに課題が見られます。
(3) 「人が困っているときは、進んで助けていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答している生徒が多く、校内で取り入れているピアサポート活動の共助の意識が浸透していることが分かります。	(3) 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」「普段、1日当たりどれくらいの時間、動画視聴などをしますか」という質問に対して、「4時間以上」と回答した生徒が多くいることがわかりました。生徒にとって電子機器やスマートフォンが大変身近で依存する傾向が見られます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 言葉を通して学び、コミュニケーションをとることで、国語の力を高めることを目指しました。わからない言葉はその意味を調べ、短文づくりを通して使い方を確認することで、基本的な語彙の定着を図ることができました。一方で、「話すこと」に関する問題に課題が見られるので、身に付けた語彙を適切に使うスピーチや話し合い活動の機会を増やしていく必要があると考えます。
(2) 「協働的な学びの実現」に向け、日常的に生徒間での教え合い活動や数学的思考が活用される場面を積極的に取り上げ、言語活動の充実とともに、説明や表現する力を身につけられるよう取り組んできました。教え合い活動により、理解が深まる生徒がいる一方で、自分の言葉で表現する機会が少なくなる生徒もいたため、改善に努める必要があると考えます。
(3) 新型コロナウイルス感染症の感染対策をとりながら、お互いに助け合うピアサポート活動を行ってきました。他者との交流が制限される中ですが、人と関わることの大切さは理解されていると考えます。また、地域の方々が多くの方の活動で生徒を受け入れる機会をたくさん作ってくださり、様々な方との関わりを通じて学ぶことができました。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 校内研究のテーマある「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じながら、今後も行っていきたいと考えます。生徒の学習への理解を深めるためにも、タブレット端末を効果的に使用しながら、小グループでの学び合い、教え合いの機会をさらに増やし、学力の向上を図ります。また、市教育委員会の指導主事も交えた、分析、フィードバックにも引き続き取り組んでいきます。
(2) タブレット端末等も利用するなどして語彙を習得し、自分の言葉として正しく使えるようにしていきます。今後の取り組みとして、情報の整理や文章の要旨を読み取り、それらを整理した上で、自分の考えを適切な方法を用いて表現できる力を身に付けていきたいと考えます。
(3) 数学的な表現を用いて考察をまとめる力をつけていくために、自分の考えを文章にまとめるだけでなく、他人の考え方や表現の仕方に触れる機会を増やし、理解を深めていきたいと考えます。また、それぞれの問題に対して適切な対応ができるようにするため、課題と数学的用語を関連付け、くり返し丁寧に問題に取り組む機会を増やし、知識の定着を図ります。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

・国語の学びを支える「コミュニケーション」は、ご家庭や地域の方との関わりが重要であり、その全てが学びの機会に繋がると考えております。日々の中で子どもたちの国語力を高めていただければ幸いです。学校と共にサポートをお願いします。

・数学的な知識・技能の習得のため、生徒に自分にとって難しい問題にも粘り強く取り組む姿勢を促します。再チャレンジの機会を作り、解ける問題を増やしていきます。

・理科では日頃から身近に起こる現象に対して「なぜだろう？」と思考を巡らせる姿勢を大切にします。情報化社会においても、自分の目で見、手で触れる学びの機会を大切にしていきたいと思っております。

・今回の調査結果を基にして、学校とご家庭とが連携して、生徒の「生活習慣」を軸にお子さまをサポートしていきたいと思っております。また、これまで地域行事への参加を通して、生徒たちは貴重な経験を積むことができましたので、今後もご協力をお願いいたします。